

11月に入り気温もぐんと下がり、冬本番も近づいてまいりました。当町でもインフルエンザ感染により学校の臨時休校もあったと聞きますが皆様にはお変わりないでしょうか？

さて、今年も残り1ヶ月少々となりました。今年9月の政権交代後、政治のあり方も大きく様変わりしようとしています。日露外交に関しては、新政権鳩山首相の返還交渉に対する熱意は並々ならぬと聞いており日露首脳会談も2度行なわれましたが、具体的進展には至っておりません。ここはぜひ内容のある進展を求めたいと思います。

北特法に猛抗議を表明したロシア政府・世論に対し、私たちもそれに負けない強い気持ちが重要だと思っております。先だって中学生を前に「ロシアは日本の学校で北方領土のことを教えることにさえ以前は抗議してきました。相手に抗議される度に返還の声が小さくなったら日本の世論はこんなものだと思われてしまいます。無関心になれば、こんなに近い島と豊かな海が永遠に遠い島になるんですよ」と話しました。

もちろん外交においては高度な戦略と交渉術が不可欠であります。私たちが抗議の声に屈してしまえば元も子もないと考えております。

今後を注意深く見守りながら主張すべきはする姿勢で取り組んでまいりたいと思います。

支部長 白田

6/1、10/4「北方領土を目で見る運動」北方領土学習語り部派遣

この運動は1市4町でつくる北隣協が平成20年度より展開しています。修学旅行生らを対象に行なう北方領土学習の語り部派遣要請に応え、当支部では6/1に東京都の高校生160名、10/4に大阪府の高校生46名を受入ました。

いずれ

別海町の観光船を利用し、ネイチャーセンターまでの船内で学習会を実施。6月は支部長と池田さんが、10月には支部長が対応し学校からもたいへん評価いただきました。

今後はより落ち着いて話ができる会場設定も課題です。

7/12 会員と家族の親睦パークゴルフ大会 & 交流会開催

元島民と後継者、家族の交流を深めようと開催しました。2回目の今年は26名が参加。パークゴルフ大会では、永洞さんが見事優勝、上林さん、細川さんがそれに続きました。永洞さんと大橋さんはホールインワンを出し、支部長提供の賞品が手渡されました。



その後、港公園で領土問題の話、日々のこと、仕事のことなど話に花を咲かせました。

支部長以外にも皆さんから飲物、魚介などたくさん差し入れいただき、ありがとうございました。

パークゴルフをしない方も次回是非ご参加ください。



7/13 「平成寿大学」北方領土学習語り部派遣 別海

7/22 北方同盟事業に語り部派遣 札幌市

生涯学習の一環として別海町中央公民館で学習会が開かれ、池田さんが約30分講義を行ないました。別海周辺地区の約90名の(大学生?)は熱心に聞き入り、身近にある北方領土問題について改めて考えてもらう機会となりました。

また、白崎青年部長は、北方同盟の要請を受け、札幌市南丸山会館で地域住民を前に北方領土問題について話しをしました。



8/5～7 北方領土返還要求キャラバン隊派遣「北海道東北国民大会」へ

昨年度復活した後継者キャラバン隊。当支部から上月さん、白崎さん、荒木さんの3名を派遣いたしました。



3名は5日朝キャラバンバスに乗り込み、道内各地から合流した後継者とともに道北各地で表敬訪問、啓発事業、各支部後継者との意見交換を行った後、7日札幌市に入り「北方領土返還要求北海道東北国民大会」で力強く決意表明を行いました。

署名啓発活動実施

8/28北方領土返還要求夏の強調月間署名啓発 役場庁舎ロビー

10/11署名啓発活動 西別川あきあじまつり会場

夏の強調月間に合わせ、8月28日支部役員で役場庁舎ロビーにて署名啓発を行ないました。

ちょうど期日前投票が行なわれており、105名に署名いただきました。また、10月あきあじまつり会場でも285筆の署名が集まりました。



全国で署名数が7000万筆に達した時点で署名の目標数は設定されておりません。

しかし貴重な休日
を返上し、返還要求の声をあげ、住民や観光客に返還運動参加を呼びかけることは国に働きかけることでもあります。



10/10「北方領土問題学習会」中標津町

北方領土問題の現状に対処し、運動の中核となる地域での活動を積極的に推進するため、中標津支部が主管となり4町の会員を対象に学習会を開催しました。当支部からは元島民5名、後継者4名、推進員が出席。

「外務省欧州局ロシア課」の山村企画官兼ロシア交流室長より講演があり、最近の日露関係について学びました。

その後「後継者の育成～今後の語り部のあり方の研究」をテーマに意見交換を行ないました。

元島民からは聴衆の世代を考慮して話す。元島民は引揚体験を後継者は父母の話や文献を参考に話してはという提案がありました。一方後継者からは、ある程度マニュアルを作っておくことも必要ではないかという意見もでしたが、枠にはめてしまうのは語り手の味を制限してしまう。後継者は返還運動を引き継ぐためという趣旨を押さえることが必要である等、意見のわかれるところでした。

原稿を見て平坦に語るのではなく、自分で組み立て、自分の言葉で話すこと。知識と熱い思いと人前で話す度胸が必要といえるかもしれません。



10/16 前原特命担当大臣(沖縄及び北方対策)との懇談会

10月16日、二ホロにおいて前原特命大臣と関係団体との懇談会が開催されました。

支部からは臼田支部長が出席。後継者の声も是非との大臣の意向により管内青連協を代表し、館下会長ら3名の後継者も参加。団体との懇談の前に、15分という短い時間ではありましたが異例の元島民と後継者のみの懇談ももたれました。前原大臣は出身の松下政経塾で学び、北方領土問題のことも熟知しているといわれ、すでにビザなし訪問もされています。今後の返還運動のいっそうの推進と私たちの活動に対する理解を大いに期待したいと思います。

11/11 北方領土サミット研修「語り部」西春別中学校



根室支庁の平成21年度地域政策推進事業として「北方領土サミット」開催事業が進められています。管内各市町から選ばれた北方領土問題に関心を持ち意欲のある中学生4～5名を対象にじっくり研修、討議、意見集約を行い、1月末に全員が二ホロに会し、今後の取り組みについて討議するという濃い内容です。

その研修のプログラムの一環として、臼田支部長が放課後の中学校で4名の中学生を前に講話を行いました。

4人を前に支部長もいつもよりやや緊張ぎみのように見えました。伝えたいことや期待がたくさんある中で、ロシア人とは歴史も地理も領土に対する考え方も異なること、平成5年から交流を続けている中でも銃撃事件は起きたこと、なぜ仲良くしようというだけでは解決できないのかを中学生の顔を見ながらわかりやすく話されました。

予定時間を少々超過しましたが中学生は熱心に耳を傾けていました。

「この中でおじいさんやおばあさんが四島に住んでいた人はいませんか？」と支部長が質問すると、ひとりが支部理事を務められた故加我さんのお孫さんとわかり、嬉しい出会いとなりました。ぜひ有意義なサミットに繋がるよう願っております。

11/14 北方領土問題現地青年の集い開催 標津町

過去2回、2月に開催した集いは猛吹雪に見舞われ、11月開催に変更した今回の集いでしたが、朝から雨風が吹き荒れ3年連続の悪天候に参加者も苦笑い。別海の5名を含む約50名

の管内の後継者が集い活発な議論を行ないました。

支庁(道)が行なう様々な広報や啓発などの取り組みについて、支庁担当者より報告を受けた後、「洋上セミナーの見直し」「会員の拡大」「青連協の新規事業」の3分科会で討議。「洋上セミナー」については、人、予算、船の手配など厳しいのが現状であるが事業評価は高く、今後は教師の参加や広い地域から参加者を募る工夫をする。H24年から新造船が利用できれば船上プログラムの計画も、等意見が出ました。また、「会員の拡大」については1～3世の交流や、わが子の加入を自ら促すなどの意見が出たほか、賛助会員や権利承継できない後継者にも議論が及び、連盟の



もうひとつの柱「元居住者の援護対策」についても勉強が必要ではないかとの認識を共有しました。

「新規事業」については具体的な案はまとまりませんでした。活動や関係事業をもっと全国に発信する工夫や、国後以外の島への後継者対話集会の展開の必要などが話し合われました。この後の交流会でも話は尽きず、日頃皆が真剣に考えている思いが伝わってきました。

12/1 北方領土返還要求行動(中央アピール行進)

1945年12月、連合国最高司令官マッカーサー元帥宛に当時の安藤石典根室町長が返還を求める陳情書を送った行動に思いをはせ、今年も北隣協が主体になり世論の喚起高揚を目的に東京においてアピール行進を行ないます。当支部からは3名が参加いたします。

新会員紹介です

8月末に島崎さんが入会されました。国後島泊村二世です。青年部にも加入されました。活躍を期待しております。

新聞報道から～11/15日露首脳会談

鳩山首相は日本時間11月15日午後、シンガポール市内のホテルでメドベージェフ露大統領と70分間会談した。首相は9月にニューヨークで行なった初の会談で大統領が言及した「独創的なアプローチ」の中身をただしたが、具体的な提案はなく、今後の協議継続を確認するにとどまった。首相は(歯舞・色丹の)二島返還では国民も理解できない。それを超えた「独創的アプローチ」を期待していると述べ、口側が提案を行なうよう求めた。これに対し、大統領は「ロシア国内の激しい世論はあるが、鳩山政権の間に領土問題をぜひ前進させたいと心から思っている」と述べたうえで「プラグマティック(実質的)な解決をしたい」と述べた。鳩山首相は「首脳間で解決するしかない。できるだけ頻繁に議論しよう」と述べた。(11/16読売)

あとがき

11月13日にNHK釧路放送局制作「北海道クローズアップ～新政権、動くか北方領土問題」が全道放送されました。お知らせする時間がありませんでしたがご覧になったでしょうか。今年NHKでは、「元島民の証言」など北方領土関連の報道に力を入れており嬉しく思う反面、全国では放映されない歯がゆさも感じます。私たちも働きかけが必要だと思えます。

6月の通信発行から時間があいてしまい申し訳ありません。つたない通信ではありますが、参加できない方々にも情報や活動をお伝えしたいと思っております。10月に帯広市で行なわれた後継者活動促進全国会議・セミナーには当支部から4名が参加しました。次回報告いたします。(A)